

農業後継者育成基金事業

平成26年度 農業青年グループ等育成事業

事業主体名 ACCY (アグリカルチャーカスタマイズ屋久島)

1 目的

屋久島では、少子高齢化に伴い、10～20年後の大幅な農業者減少により、自分たちが農業の担い手の中心となることが見込まれる。地域農業の維持・発展のためには、先人の経営を踏襲するだけでなく、各人の経営モデルの変更・確立が急務と考えられる。

そこで、屋久島における農業経営の最適化と各会員の将来ビジョン及び経営戦略を確立し、事業計画の作成をするため、視察研修や農業経営モデル作成勉強会を実施した。

2 実施状況（主要なものを選定して記載してください）

(1) 視察研修の実施（平成27年1月）

農業開発総合センター果樹部（垂水市）を視察し、高品質・多収のぼんかん・たんかんの栽培技術や育種中の有望カンキツについて学んだ。

研究機関であり、理論（仮説）に基づき、栽培管理がなされている。これまで教わった剪定の仕方はピンときてなかったが、この視察研修で理論と実際がわかり、その後の剪定作業の参考になった。



(2) 農業経営モデル作成勉強会、異業種を交えた勉強会の実施（平成26年4月～27年2月）

農業経営に必要な経営・技術力を身につけるため、果実分析の手法や分析結果の見方、有望カンキツについて勉強した。

また、農業だけではなく、他産業の若手も参集し、12月と2月の2回、勉強会を企画した。農業者の新規事業や企画プロデュースを行う協坂真吏先生を講師に、マーケティングや地域で連携した取組の必要性など学び、農業経営のモデル作成の参考となった。



果実分析と有望カンキツについて学ぶ（1月）

異業種を交えた勉強会（2月）

3 今後の課題、取り組み

屋久島の農業を見渡した時に、近い将来、経営面での転換を迫られる時期が来るかもという不安が漠然とある。メンバーと視察研修や勉強会を行いながら、自分たちのやりたい農業経営を確立するとともに、他産業の仲間とも切磋琢磨し、屋久島の農業・産業を牽引する担い手になりたい。